

科目	地域作業療法学演習	担当	大浦 智子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

地域住民が健康状態や障害の有無にかかわらず、安心・安全に生活を送るための支援について学ぶ。医学モデルのみならず心理社会面の視点から地域活動を展開できる知識と技術を身につけ、作業療法学の技術を活かした健康支援と地域貢献のあり方を学ぶ。具体的には、①健康の社会的決定要因を説明できる、②地域介入の必要性に応じた健康支援計画を立案できる、③地域活動を運営・実施できることを目標とする。

【履修注意】

夏季から後期履修期間中のフィールド演習を予定している。日程の詳細は、別途連絡する。

【評価方法】

出席、レポート、演習の取り組み等を総合して評定する。

【試験について】

レポート

再試験対象者の条件： 学内試験規定に準ずる。

【予習・復習】

知識を深めるために、講義内容のみならず、3年前期までに学んだ各専門領域の事項も含めて復習する。

リハビリテーションに関する専門知識のみならず、地域の文化や制度の理解に努める。

演習で経験したことを振り返り、自己の行動計画に活かす習慣をつける。

【教科書】

書籍名：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 監修：長崎重信 編集：徳永千尋・田村孝司

出版社：メジカルビュー社(購入済)

【参考書】

随時紹介する。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	地域の健康づくり①	予防の視点による作業療法活動、健康行動と健康行動モデル
2	健康の社会的決定要因①	個人固有の因子、ライフスタイル、人間関係、コミュニティ
3	健康の社会的決定要因②	心理社会面、主観的健康感、ストレス対処能力、介護予防、地域支援事業、介護予防施策
4	健康の社会的決定要因③	身体運動面、体力、バランス、筋力
5-10	介護予防①-⑥(少人数・多会場で複数開催)	介護予防事業の理解、計画・立案、実施
11	地域の健康づくり②	地域介入と評価計画①
12	地域の健康づくり③	地域介入と評価計画②
13	介護者の理解	地域支援、家族会、認知症
14	行政の活動	行政における作業療法士の役割と活動
15	地域の健康づくり④	地域を支援する視点、まとめ
16	期末試験	レポート提出